

5/31 朝

亀岡駅北東側への

移転に前向き姿勢

スタジアム問題で市長

亀岡駅北側に建設予定の京都スタジアム(仮称)について、周辺に生息する国の天然記念物アユモドキの保全策を考える専門家会議が予定地変更を府と市に提案してから約1カ月。亀岡市の桂川孝裕市長は30日の定例会見で、「市にとつて移転しか道はない」として移転に前向きな姿勢を示した。市は駅の北東側を移転候補地として想定し、7月をめどに移転の可否を判断するとしている。

市は事業地内の地権者らでつくる組合などと協議を重ねてきた。桂川市長は「当初の予定

地にこだわれば亀岡にスタジアムができなくなるかもしれない」とし、アユモドキも守れない」とし、駅北の事業地東側を移転候補地として検討していることを明らかにした。市は予定地変更に備えて土地の鑑定評価などを進めているが、「市は50億円の当初予算内が前提。用地買収は厳しく、府に協力を求めたい」と強調した。(森泉萌香)

スタジアムの建設予定地をめぐっては先月、アユモドキへの影響がほとんど無く、建設予定地より駅に近い「亀岡駅北土地区画整理事業地」への移転を専門家会議が提案。これを受け、